

スポーツウェアの色彩に対する競技観戦者の印象評価の数量化とその応用

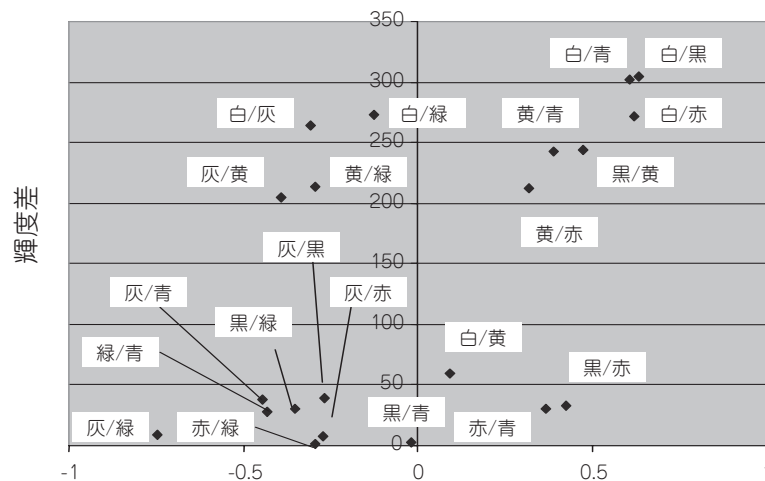
研究代表者 京都工芸繊維大学 佐藤 哲也

スポーツを観るとき、私たちは選手のユニフォームの色やパターン、そして背番号で選手を識別します。特に蹴球やラグビーといった敵味方の選手が入り混じるスポーツでは、ユニフォームの色が選手にとっても重要です。

私たちは試合を観戦しているとき、選手の動きを注目しながら実際にはユニフォームの色を無意識に観ている訳ですが、いったいどのような印象を受けているのでしょうか。「さわやか」や「かっこのよさ」といった印象と同時に、私たちは「区別のしやすさ」を「好ましい」という印象で表していることが今回のサッカーの試合観戦調査の結果分かりました。しかしユニフォームの色と背景（ほとんどが芝のグリーンとスタンドの広告の色ですが）との区別のしやすさはあまり関係がないということです。これからは対戦相手のユニフォームの色の組み合わせを考えたデザインが必要ということでしょうか。そういえば芝のグリーンと同系統の色のスパイクを履いてどこからボールがキックされたか分からないようにするという試みもありましたね。



ユニフォームの区別しやすさは、観戦者に好印象を与えるようだ



「区別のつきやすさ」の嗜好度

ユニフォーム色の組み合わせにおける「区別のつきやすさ」と輝度差の関係